

早稲田環境研究所

## 中嶋 崇史 代表取締役社長



——早稲田環境研究所の事業について教えてください

早稲田大学発ベンチャー企業として、大学の研究成果を応用しながら、社会システムの課題解決に向けたコンサルティングから事業化までをワンストップで提供しています。事業化に必要な製品・システム開発も行っています。

例えば「自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム関連事業」では、研究室で自動車リサイクル法などに関わってきた経緯があり、その中に自動車のリユース部品マーケットを高度化する研究があります。これは自動車の部品を回収して溶かして新しいものを作るという資源リサイクルにとどまらず、リサイクルの上位概念（高度化）であるリユースを進めようという取り組みです。

この取り組みでは自動車事故の修理の際に、新品部品ではなく廃車から取り出された後に、美化検査を経て品質保証が担保された磨き上げたリユース部品を使うという新たな仕組み需要を構築し、事業として成り立たせることが仕事になります。

——起業のきっかけは

大学の研究成果を社会システムに応用し、環境配慮型社会システムを構築する適応させるという目的で、取締役会長である小野田が会社を設立しました。

もともと私は小野田と同じ研究室の出身で、私が修士課程のときに別会社の代表として、現在の早稲田環境研究所でやっているような仕事の一部を受託していました。その後、研究が地域や社会の問題解決につながる仕事をやりたい、社会システムや日本全体に貢献することに関わり続けていきたいという思いで入社し、現在もその思いを忘れずに業務にあたっています。

——今後のビジョンや展開は

力を入れている自動車アフターマーケット関連事業は研究会・勉強会の段階から数えると、10年単位でのプロジェクトとなります。当初はCO<sub>2</sub>削減効果情報提供システムの運用に留まっていましたが、いまでは、自動車保険が赤字であることなどから、コスト削減にも貢献するリユース部品の利用に向けて保険会社との連携も増えています。これまでのビジネスモデルにリユース部品を導入した「環境配慮型」モデルへの転換が実現に近づいています。